

様式 3

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和元年度 第7回相模原市経営評価委員会				
事務局 (担当課)		経営監理課 電話042-769-9240(直通)				
開催日時		令和元年10月18日(金)10時00分~11時00分				
開催場所		相模原市役所 職員会館4階 会議室1				
出席者	委員	9人(別紙のとおり)				
	市					
	事務局	3人(経営監理課長 他2人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議事 (1) 「第2次さがみはら都市経営指針実行計画」平成30年度の取組結果評価に関する建議書(案)について (2) 「第2次さがみはら都市経営指針実行計画」の指標の変更等について 3 その他				

## 審 議 経 過

### 1 開会

定足数及び傍聴者の確認を行い、経営評価委員会を開会した。  
主な内容は次のとおり。

### 2 議事

- ・ これまでの委員会の審議を踏まえ、「第2次さがみはら都市経営指針実行計画」平成30年度の取組結果評価の建議書案について、事務局より説明し、建議書案の最終とりまとめを行った。

(以下、質疑応答・意見交換 は委員の発言、 は事務局の発言)

#### ・ 議事(1)

取組項目39(生活保護受給者の就労による自立支援)について、前回ご審議いただいたが、局評価Bとなっているものの、実績値は目標の8割以下となっている。他の項目との評価の整合性も含め、委員会としてBとするか、Cとするか再度審議をお願いしたい。

- 局評価でB評価としている理由はどのようなことか。  
取組に関して、投資経費以上の効果を出していることから、事業成果は出ているといった部分も含め、評価をBとしている。
- 評価基準を改めて確認したい。  
目標を達成している場合は、A評価、目標の8割を超える場合はB評価、目標の8割未満の場合はC評価とする基準となっており、数値目標がある場合は、目標値に対する実績値で評価を行うこととなる。
- 基準においては、C評価が相当であるが、取組が十分に行われている点を意見として明示する形でよいのではないか。
- 評価基準が数値のみであるため、評価のあり方については改めて検討を行うほうが良い。
- 当該取組項目は、扶助費の削減も目標となっているが、例えば、支給額の多い世帯を中心に取組を進めることが本来の目的ではない。このことから削減額だけをもって評価を行うことは望ましくないと考える。また、効果は出しているものの、投入経費は前年度より増額しており、効果額は減額している。民間企業であれば、当該事項を理由に評価を上げるのには疑義がある。評価を上げる取組であれば、投入経費の削減等を図るべきである。  
評価結果は「C」とし、記載内容も含め修正する。
- 全体意見について、取組が遅れている項目が増えているという点からも、取組を進めるためには、踏み込んだ分析が必要である。取組が遅れている要因をこれまで以上に、客観的な分析を行うといったような記載が必要ではないか。

現在の記載が、分析し、説明を行い、新たな取組を積極的に行うといった部分を一つの項目として記載しているが、分析に関しては、より踏み込んだ内容となるよう、分析及び説明を一つの項目とし、新たな取組の積極的な実施と分けるようにし、記載方法もこれまで以上の分析を行うよう工夫する。

- ・ 議事（２）
- 指標の変更について、より適切な制度設計は事務局で行うということで良いか。制度設計については、適切な変更スキーム等は事務局で行う。

### 3 閉会

全ての審議が終了し、閉会した。

以 上

相模原市経営評価委員会 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	山口 由紀子	相模女子大学 副学長・ 人間社会学部 教授	委員長	出席
2	川崎 一泰	中央大学総合政策学部 教授		出席
3	出雲 明子	東海大学 政治経済学部 准教授		出席
4	霧生 卓	公認会計士		出席
5	坂本 堯則	相模原市自治会連合会 会長	副委員長	出席
6	染谷 耕平	相模原商工会議所 青年部副会長		出席
7	三好 上次	公募委員		出席
8	神田 広幸	公募委員		出席
9	青木 庸江	公募委員		欠席
10	澤野 光晴	公募委員		出席